またいつか一緒に【第六話】

蟻塚つかっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
またいつか一緒に【第六話】

【Ｎコード】
Ｎ９６１２Ｔ

【作者名】
蟻塚つかっちゃん

【あらすじ】
修学旅行の帰り、僕は事故に遭い右腕と両足を失った。そうしてそんな僕を見捨てるように去っていく友人。僕は恨み呪いながら時間を過ごした。そんなある日、インターネットの掲示板で発見した『復讐の代行、請け負います。詳細はメールにて』の書き込み。激情の赴くまま、彼は依頼のメールを送信する。二か月後、自分のやったことの結果を実際に目の当たりにした彼は、戸惑いを隠せなくなってゆく。そのころ復讐を予定された友人の、恋人が登場する。しかし、無関係であるはずの彼女が事故に巻き込まれ……。

（前書き）

今回は、設定事項を用意しました。以下の内容に添って、執筆お願いいたします。

リレー小説（第二弾）設定・注意事項

★全４０話
★一話２０００文字以上
★登場人物数制限なし
★ファンタジー要素無し
★ＳＦ要素無し
★地の文は主人公視点
★重複執筆可
★ジャンルはその他
★執筆予約制廃止（予約を入れてくださる著者様を拒みはしませんが、ある程度の執筆予約が入ってからの執筆開始はしません。執筆予約を入れられた著者様に関しては、活動報告に掲示させていただきます）
★執筆著者様は、執筆前にご連絡ください
★執筆投稿後、必ず御一報ください
★あらすじは、前話までの要約を明記
★全ての物語を聖魔光闇がお気に入り登録します
★後書きに執筆著者様募集広告を添付

一話：聖魔光闇先生　ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ１５９０ｔ／

二話：日下部良介先生　ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ２２９６ｔ／
三話：ふぇにもーる先生　ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ３９９１ｔ／
四話：ｋｏｙａｋ先生　ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ４６３０ｔ／
五話：創離　ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ８３１８ｔ／

どうぞよろしくお願いします。

八草椎名は死んだ。即死だった。

すぐ救急車を呼んだが、その時点でもう死んでいたのはわかっていた。

両の腕があり得ない方向に曲がっていた。いくつかの指が欠損していた。

圧縮された頭蓋から肉色のゼリーのようなモノが毀(こぼ)れていた。

炯炯と光る白い骨がぐちゃぐちゃの服を更に突き破っていた。

首がねじれ曲がり眼窩や鼻から血液が飛散していた。

眼球は垂れ、視神経はもうすぐで切れそうになっていた。

下半身はえぐれていて足はもうくっついていなかった。

この状態で助かっていたら奇跡だと思うほど酷かった。

俺はずっとその姿の椎名を見ていた。

不思議なことで死体が人間らしくなかったからだろうか、気持ち悪くはなかった。

解体された豚肉や牛肉を平気で食べる人間のように、俺は彼女の死体をモノとして見ていたのだろうと思う。

そのあと遥が毛布やらシートなどでその死体を人目のつかないようにしていた。

俺はその作業をぼおっと見ていた。足が動かなかった。ショックが強くて感情が鈍磨していた。顔の筋肉が強張(こわば)っている。これじゃ俺が能面だ。

現場に来た救急車には乗せてもらえず、三日月の野郎はそのまま地面に突っ伏して泣き続けていた。

「どうして椎名が……死ぬ……んだ……うわあああああああ」

その裂帛の声は透き通っていた。こんな脆弱な三日月を見たことが

ない。いつもの他者の悪意から自分の矜持を守っている三日月が、表情を歪めずに能面の顔を突き通している三日月が、原型が見えないほどのぐちゃぐちゃの顔で嗚咽を漏らしているなんて。くそやろう。どうして、どうして！　こんな顔見たくなかった。お前の凛々しく美学めいた顔が崩れたところなんて見たくなかったよ！　これは俺のせいか？　これは俺の……。

何時間経ってもいつまでもその号泣は続き、その残酷なる残響は今でも耳から離れない。

自分の家に帰った時点では、顔が固まったまま動かせなかった。
しかし時間が経つにつれ筋肉が弛緩したのか顔を徐々に動かせるようになった。
そのときまずは怒りが発露した。そして即座に悲しみも起こった。
その複合された感情を俺は処理しきれなかった。近くにあった目覚まし時計を思い切り壁に投げつけた。時計は破片をぶちまけた。……。
……疑問が湧いてきた。これは本当に俺の「復讐」のせいなのか？
俺の依頼した復讐は他者を巻き込むのか？
その疑問を解消するため即座に業者にメールをした。
しかし、いくら待ってもメールは返ってこなかった。

俺はこれは純粋な事故だと思い込むようになった。
そうでもしないと俺のこころが壊れると思ったからだ。
かつてないほどの罪悪感によって崩壊しそうだからだ。
油断していると精神が罪に食われそうだ。
これは事故だ。
これはただの事故だ。

これは普通の事故だ。
俺は関係ない……。
ただの事故だろ？
椎名は無関係じゃないのか？
これも俺のせい？
……。
……。
そのときだった。
俺の心がざわざわと囁く。
（なあ、これでいいじゃねえかよ）
（おいおい、これであの能面が苦しむんだぜ）
（なあ、わかるだろ。これもお前のせいなんだぜ）
心がざわめく。俺の心が嘯く。俺の心が暴れる！
（これでお前はハッピーだ。よかったな）
（くっくっく、復讐を依頼してよかったじゃねえか）
なんだこの感情は！　幻影かまやかしか。
（これがお前の真実の心）
俺の本心じゃない！　こんなことは願ってない。
（お前の本心だ）
第三者が傷つくなんて知らなかった。
（こうなることは予想できたんじゃないのか？）
俺のせいじゃ……ない。

気がつけば。
涙が零れていた。（だが同時に呵呵大笑してる）
虚無に包まれていた。（そして充実感を感じてる）
後悔の念に苛まされていた。（ククク、それは偽善だ）
贖罪はできないか考えていた。（ただの自己満足だろ）

はあ、はあ、はあ。深呼吸するんだ。
すぅー。
はぁー。
すぅー。
はぁー。

……なんとか治まった。
俺の心はどうなった？
急激な衝動でバグれたのか？
いや。
もう。
大丈夫だ。
落ち着いた。

ピロピロピロピロリン♪

そのとき、ケータイにメールが来た。
見ると、それは三日月の奴からだった。
そこには

『恋人を守れない男は死ぬべきだ』

と書かれていた。

俺は遥を呼び出し、三日月の家に急いだ。久しぶりに向かう家はいつもより遠く感じた。
「すいませーん」
「はい、智也君じゃない！　久しぶりねえ」

「おばさん！　三日月の部屋はどこだった！」
「うん？　二階の廊下の突き当たりだよ」
そうだ。俺は何回もこの部屋に来たことがある。記憶が溢れる。
俺は遥に付き添ってもらい階段を一段一段昇った。
この足になってから階段は避けてきた。病院ではエレベーターがあり、自宅では一階に部屋を移った。一歩一歩が重い。隔靴掻痒。もどかしい。
急げ。急げ。急げ。
はあ、はあ、はあ。
はやく、はやく、はやく。
くそったれっ！
はあ、はあ、はあ。息が切れる。
はやく。
全段昇り、奴の部屋の前に到着した。
「ここだ、あけるぞ」
俺は静かにノブを引いた。扉が開かれる。
「何も見えないわ」
部屋の内部は暗かった。闇に支配されていた。暗澹を孕んでいた。
電気のスイッチを手さぐりに探した。
「ここだ」
スイッチを押した。
部屋に光が満たされ何かが目に映った。
それは三日月だった。
只野三日月は首を吊っていた。

（後書き）

ストーリーはあまり進みませんが、心理面・精神面に何かしらの加速をつけられたと自覚しております。
やはり一人称の小説はじわじわとくる心の動きがいかに布置されるかにかかっていると思います。
ついに人を殺してしまいました。聖魔光闇先生に逮捕されそうです（笑）
いやあ、仕方ないでしょ、あのようにされると……すいません。
精神を蚕食され、もがき苦しむ主人公、さてさていかに続くのでしょうか。
楽しみになってまいりました。これにて第六話は終わりです。さよならさよならさよなら。

これはリレー小説です。
リレー小説とは、複数の筆者による合同執筆（合作）を言います。
御参加頂ける方は　聖魔光闇先生　までご一報、そして投稿後にご一報ください。
ｈｔｔｐ：／／ｍｙｐａｇｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／１０７０８５／　←こちらまで！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9612t/

またいつか一緒に【第六話】

2011年7月6日13時13分発行